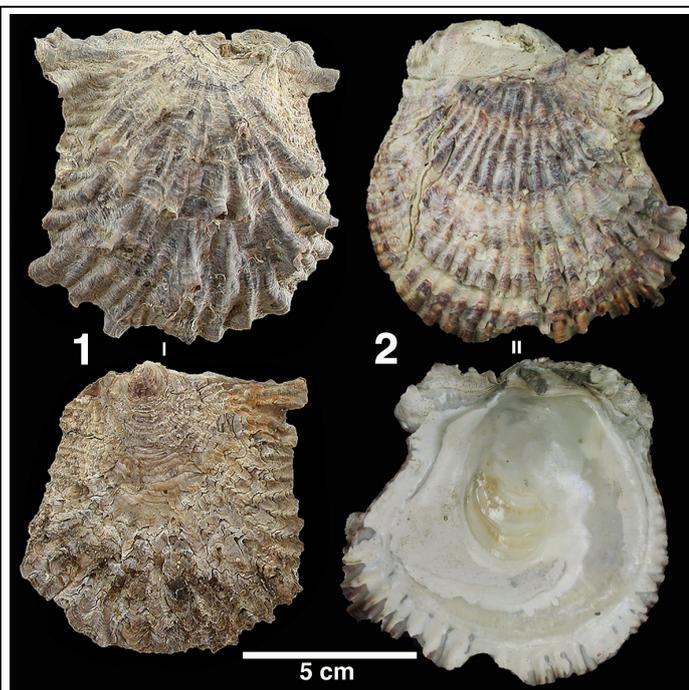


イタボガキ *Ostrea denselamellosa* Lischke

【選定理由】

本種は内湾の浅海域（潮下帯）の砂泥底に生息する大型のカキ類で、かつては食用にするほど多産したが、20年ほど前から分布全域で個体数が激減している。県内でも内湾域の潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には三河湾湾口部で底引き網によって大量に採集され、食用にされていた（愛知県科学教育センター, 1967）が、日間賀島における生貝（図1）の採集記録（木村, 1995, 1996）を最後に全く生貝が採集されていない。近年では古い死殻さえ採集が難しい。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



1: 南知多町日間賀島南沖(底刺し網), 1992年4月18日,  
2: 名古屋市名古屋港沖(コアサンプラー水深15 m), 2009年5月30日,  
木村昭一採集

【形態】

殻長10 cmを越える大型種。ほぼ方形で殻は厚い。左殻はやや膨れ、不規則な分岐肋が生じる（図1上, 2）。右殻はやや扁平で、椀皮茸き状（図1下）。

【分布の概要】

【県内の分布】

現在生息が確認できない。2009年に名古屋港沖より採集された左殻は、色彩が良く保存された死殻（図2）であり、一見して現生個体の死殻と断定できる最後の採集例の可能性が高い。現在、大型種であるにもかかわらず古い死殻でさえ採集することは難しく、絶滅した可能性も高い。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、国内では陸奥湾～九州に分布する（山下, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられるが、著しい減少の要因については不明。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第34報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.  
山下博由, 2012. イタボガキ, p. 113. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)